

平成26年度 第3回経営協議会議事要旨

日 時 平成26年 10月23日(木) 15時00分～16時20分

場 所 学長室

出席者 (学外委員) 井田委員, 大平委員, 沖田委員, 潮谷委員, 中尾委員, 古川委員
(学内委員) 佛淵学長, 中島委員, 岩本委員, 宮崎委員, 吉永委員, 森田委員
欠席者 (学外委員) 陣内委員
(学内委員) 瀬口委員

- ・ 議事に先立ち、学長から、平成26年度第2回経営協議会(持ち回り審議)の開催について謝辞があった。また、第1回及び第2回経営協議会の議事要旨の確認について依頼があった。

【報告事項】

(1) 平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

学長から、本件について、11月5日の文部科学省国立大学法人評価委員会における評価結果の確定に先立ち、意見の照会が行われた旨の報告があり、以下のとおり説明があった。

- ・ 注目される事項として、「IRの取組」や「ラーニングポートフォリオによる学習支援・ティーチングポートフォリオによるFD支援」などが取り上げられている。
- ・ 平成25年度実績の4つの項目別認定結果(案)のうち、3項目は「順調」だが、「その他業務運営に関する重要目標」の項目は、「おおむね順調」の評価である。これは、「教員等個人宛の寄付金が個人で経理されていた事例があったこと」及び「附属中学校において個人情報の入ったUSBの紛失があったこと」が総合的に勘案され、コンプライアンスの観点から厳格な評価がなされたものである。
- ・ 教員等個人宛の寄付金が個人で経理されていた事例は、会計検査院の会計実地検査により発覚したものではなく、学長指示のもとに自主的に行った調査により把握した過年度の事例であり、既に教員等への周知徹底等、再発防止に取り組んでいることから、評価結果(原案)の内容に関して修正文案のとおり文言の追加・修正の申立てを行っている。
- ・ USBメモリー紛失の事例については、教諭が紛失したUSBメモリーは、生徒が保管しており、情報の流出はなかったが、校長の許可を取らずに持ち出すなど、十分な認識がなくルールを守っていなかった。講習会を開催し再発防止に取り組んでいる。

さらに、学長から、今後、コンプライアンスを積極的にチェックする体制を取る旨の発言があり、学外委員からは、評価結果(原案)を修文したことによる印象は良いと思うとの発言があった。

(2) 平成27年度国立大学法人佐賀大学運営費交付金概算要求額（文部科学省）の概要について

学長から、本件について、文部科学省から財務省に提出された平成27年度概算要求事項のうち、佐賀大学関連事項が以下のとおり報告された。

- ・ 運営費交付金予定額は、総額11,055百万円（対前年比89百万円、0.8%減）。
- ・ 組織整備の「医学部看護学科編入学定員の改訂」は、全国的に編入学でレベルの高い学生が入学しなくなったことから定員を0にする。
- ・ 特別経費のプロジェクトは、新規1件、継続3件。
- ・ 基盤的設備等整備分は、5件要求したが採択なし。
- ・ 施設整備費要求事項は、新規2件、継続1件。現在、問題は建築費の高騰である旨の発言があった。

(3) 平成25事業年度財務諸表の承認について

学長から、本件について、平成26年6月25日に提出した平成25事業年度財務諸表は、9月25日付で文部科学大臣から承認通知があった旨の報告があった。翌事業年度への繰越申請額は478千円である旨の発言があった。

(4) 「学長のリーダーシップの発揮」をさらに高めるための特別措置枠について

学長から、本件について、平成26年度国立大学法人運営費交付金特別経費『「学長のリーダーシップの発揮」をさらに高めるための特別措置枠』の配分額が80,400千円に決定した旨の報告があり、事業の内訳は、グローバル化1件、イノベーション創出2件、ガバナンス機能強化1件、その他の政策課題等1件である旨の発言があった。

学外委員から、学内の計画調書提出数の質問があり、学長から8件程度であったと発言があった。

(5) 平成26年度国立大学法人施設整備費補助金（国立大学改革基盤強化促進費）の交付決定について

学長から、本件について、文部科学省から文化教育学部・附属学校園におけるICT利活用教育環境基盤整備事業63,220千円（当初要求額123,238千円）の決定通知があった旨の報告があった。ICTの利活用を推進することで授業の双方向性を高めるが、国立の附属学校には措置されておらず県内公立校に比べてむしろ遅れ気味であった、交付決定額の不足分は他の予算を充てる旨の発言があった。

(6) その他

特になし。

【意見交換】

◎ 第3期中期目標・中期計画作成の基本方針について

学長から、神集島合宿研修所（唐津市）において「佐賀大学改革プラン勉強会」を実施し、理事・教員・事務職員など、総勢41名が参加、第3期中期目標・中期計画に向けて「教学」・「学術」・「社会貢献」・「経営基盤」の4つの視点に分かれてグループディスカッションを行ったことが報告された。

さらに、佐賀大学が今どの方向に向かっているか、今の姿を見ていただき、学長選考会議において、今後どうしたら良いか考えていただくために説明する旨の発言があった。資料の第3期中期目標・中期計画に向けて～最近の教育行政の方向性と大学改革実行プラン～を基に、国立大学法人化から現在までの大学改革の流れ、IRデータを基に佐賀大学が有する強みや特色、さらに課題を客観的に把握し、第3期中期目標・中期計画を検討すること、グループ別に具体的に作った中期目標・中期計画について説明があった。

次いで、意見交換を行い、委員から次のような意見等が出された。

（●は学外委員の意見等、○は学内委員の説明等）

- 地域連携分野の課題で「佐賀県における産学官包括連携協定」の新規事業の企画力の低下、事業実施責任者が佐賀大学に偏っているとあるのは具体的にはどういうことか。
- 事業によっては、必ずしもパートナーとうまく組めていないものがあり、事業実施責任者は佐賀大学の教員が務めているものが多いということ。第2期は「認知症総合サポート事業」をリーディング事業とし、県総人口にしめるサポーター数の割合は全国22位から6位になった。また、サポーター養成だけにとどまらず、福祉・介護業務に取り組んだ。その他、「豊かな暮らしに“さがのお茶”活用事業」も始まり、「佐賀偉人伝出版事業」も頑張っている。
- COC「地（知）の拠点整備事業」は教育中心のプロジェクトで、カリキュラムに組み込み、全学的にアクティブラーニング、インターフェイス教育として実施し、社会との関わりの中で地域に貢献する人材を育てる。グローバル人材を考える一方で、地方にとどまる学生もいるが、どこであれ、その地域の課題を見つけ、解決する人材を育てていくことが教育を通じた地域創生である。
- 少子高齢化社会は、将来構想において悩むところであり、佐賀県人が危機感を共有しなければならない。6者協定を全体的にどう高めていくか、リーダーシップを県が握り、すそ野を広げて6者協定に落とすことで、行政が大学シーズと市場ニーズの関係を強める役割を担う。事業の絞り込みは達成感をそぐのではないかと感じる。
- 県内100社を回ったが、研究部門を持つ会社は多くなく、やはり農業・漁業中心。徐福フロンティアラボの機能性・健康食品開発、唐津コスメティックバレー構想などは、熊本大や長崎大にない農学部を持つ強みになる。また、先日、美術館で佐賀

錦と鹿島錦の展示を行ったように、文系（文化・芸術・歴史）の連携を望む。産業化できるかという問題はあるが、観光にはなる。事業の選択と集中を行い、拠点を作ることが大事。

- 成功事例を作ることが大切で、そのお手伝いをするということ。オプティム（佐賀大学卒業生のIT企業）の上場や、ユニバーサルサウンドデザイン（難聴者に聞こえやすいスピーカーの開発）の誘致をみても、新しいことを始める人は存在している。今、佐賀大学にしかできないことは、有明海の「再生」というより「創生」で、その中核になっていただきたい。開門の問題はおいておき、赤潮対策、水産資源の回復などアカデミズムの出番を地域が欲しており、県も一緒に行う用意はある。
- 近大マグロの成功例もあるので、佐賀ブランディングとしていいものを見つけ、技術開発と広報戦略を県と大学が組んで行うといい。
- ユニバーサルサウンドデザインにも関係するが、いいものを作ってもなぜ宣伝しないのか、早く皆さんに知ってもらいたいという思いがあった。
- 時代の変化をどう再構築していくという視点が大事。佐賀の人は情報提供が上手ではないように思う。
- 大学のブランディングを考えると、入学式・卒業式時に写真を撮るところがないと言っていた頃に比べて今は見違えるようになった。県のイメージをあげることは難しく、全国順位の低いところで争っても仕方がないと思っていたが、それではいけないと思った。よく「面倒見のいい大学」と言われるが、学生が公務員を目指すのならば別に専門学校に行く、学力不審で企業のペーパーテストの一定の点数が取れないなどということに関してどう思うか。
- 出口の問題は、就職率を分析し、課題が見えてきた。就職率は全国25位と上がってきたが、教員採用試験と公務員試験に落ちた浪人生が一番の問題と認識している。公務員試験対策は本学の場合、生協が行っているが、最後まで通わずあきらめる者がいるなど実態が見えてきたので、ターゲットを絞った対応を考えている。また、各学部の学科長毎に面談を行い、出すところまでが責任と言った結果、今までこの時期、就職か進学の不明者が、3割から4割いたものがほとんど0になった。

以上